

議会運営委員会視察研修報告

- 日 時 平成28年2月3日（水）～2月4日（木）
- 研修先 長野県千曲市議会、岐阜県可児市議会

議会運営委員会では、議会運営、議会改革などについて、先進地である2つの市議会を視察した。

長野県千曲市 ① 北陸新幹線新駅誘致期成同盟会について

② 特別委員会について ③ 会派制、政務活動費について

千曲市は、長野県北信地域の南東部に位置し、平成15年9月1日に旧更埴市、旧戸倉町、旧上山田町の1市2町が合併し、平成の大合併としては長野県で初めて誕生した市である。

- ① 当市をはじめ近隣市町、静岡県、商工会議所等で構成されている「東海道新完成静岡空港駅設置期成同盟会」に関連していることから、これまでの経緯等について研修をした。平成4年3月に駅設置の要望をし、平成9年5月に北陸新幹線（仮称）更埴駅誘致期成同盟会が発足し、誘致活動を実施しているということであり、当初から23年余が経過した現在においても新駅設置まで至っておらず、道のりはかなり困難な状況であると感じた。静岡空港新駅における要望活動の方法、議会の関わり方について再検討する必要があると感じた。
- ② 千曲市議会では、「新幹線等促進特別委員会」「新庁舎及び公共施設に関する特別委員会」「地域振興対策特別委員会」「議会広報特別委員会」の4つの特別委員会が設置されているとのことである。特に、「新庁舎及び公共施設に関する特別委員会」については、当市における公共施設マネジメントでの庁舎等の関係があったことから関心が高かった。千曲市では当市と同様に対等合併をしているとのこと、現在は3庁舎を有しているが、すべて老朽化が激しく、新庁舎の候補地が既に決定しているが、市民からの反対は少ないということであった。当市の状況とは異なっていると感じたが、課題に対して的確に反映した特別委員会を設置するという姿勢は必要であると感じた。
- ③ 千曲市議会では、3人以上の議員で会派を結成できるということである。また、政務活動費については、1円からすべてにおいて領収書の提出を義務づけており、会派に所属していない議員もみなし会派として交付されるということであった。なお、長野県内の他市では、政務活動費を廃止して、報酬を上げた事例があったということであった。会派制及び政務活動費については、みなし会派の取り扱いも含めて、もう少し調査・研究する必要があると感じた。

岐阜県可児市 議会改革・議会運営について

可児市は、岐阜県の中南部に位置し、古くから飛騨路および木曾路への重要な結接点となっている。また、昭和40年代後半から名古屋圏のベッドタウンとして丘陵地を中心に民間開発による大規模な住宅団地の建設が相次ぎ、急速に人口が増加し現在の人口は10万人を超えている。

可児市議会は、気づき、ひらめき、行動力、相互理解、実施、規定という取り組みにより、議会改革度が全国でも上位にランキングされる先進地であり、様々な活動をしている。

特色のある活動としては、市議会としてマニフェスト大賞を受賞した「地域課題解決型キャリア教育支援事業」がある。これは人口減少という特に若者世代の都市部への流出が多い地方都市の悩みを解消するために、「議会として何をすべきか」という考えを発端とし、まずは若者世代である高校生に地元の魅力や地域への愛着を持ってもらうために、議会が主導となり地域と高校をコーディネートし、各種団体も巻き込み、ふるさとに寄与する人材育成をするというものであった。地域の活性化はもちろんのこと、議員の資質向上にもつながっていくものであると感じた。

また、議会が高校で議会についての出前講座をしているということであり、これから18歳まで選挙権が引き下げになることから、若者が選挙（議会）に興味を持ってもらうための有効な手段であると感じた。

今回の先進地視察は、今後の当市議会における議会運営、議会改革を進めるうえで大変参考となる有意義なものであり、参考にしていきたいと思っております。



視察研修の様子（左：長野県千曲市議会 右：岐阜県可児市議会）